

大阪府にある日本最大級の前方後円墳の名前は何？

各世代の常識

30代 仁徳天皇陵

10代 大山古墳

40代 仁徳天皇陵

20代 仁徳天皇陵

50代 仁徳天皇陵

まずは復習！

古代国家の多くは王の巨大な墳墓を残しますが、日本においても弥生時代が終わる3世紀ごろから小国家が形成され、近畿地方を中心に前方後円墳が数多く作られます。そのため、この時代を「古墳時代」と呼びます。

その中でも有名なのが皇位第15代^{おうじん}応神天皇のものとされる陵墓と皇位第16代^{にんとく}仁徳天皇のものとされる陵墓です。特に仁徳陵古墳はその底辺部の大きさではエジプトのクフ王のピラミッドや中国の秦の始皇帝陵よりも大きな日本最大の陵墓です。教科書では、代表的な古墳として仁徳天皇陵古墳と応神天皇陵古墳について一般的には記述されています。しかし、この2つの古墳は、考古学的に仁徳天皇陵や応神天皇陵とは確定されおらず、最近の教科書では、^{こんだやま} 応神天皇陵は^{びょうざん} 誉田山古墳・^{だいせん} 誉田御廟山古墳、^{だいせん} 仁徳天皇陵は^{だいせん} 大山古墳・大仙古墳など、古墳名で表記される傾向があります。

主要教科書の変遷

年代	東京書籍	山川出版社	実教出版
70年代	前半 71年=応神・仁徳両天皇の前方後円墳	71年=仁徳天皇陵 応神天皇陵 74年=仁徳陵古墳 応神陵古墳	73年=応神天皇陵 仁徳天皇陵
	後半 77年=応神・仁徳両天皇の壮大な前方後円墳 78年=変更なし	78年=変更なし	
80年代	前半 83年=仁徳陵 応神陵	83年=仁徳陵古墳 (大山古墳)	80年=応神陵 仁徳陵 84年=応神陵 仁徳陵 と伝えられる
	後半 85年=変更なし	85年=仁徳天皇陵古墳 (大山古墳)・ 応神天皇陵古墳 (誉田山古墳)	87年=変更なし
90年代	前半 90年=変更なし 93年=変更なし	91年=仁徳陵古墳 (大山古墳) 94年=大仙陵古墳 (仁徳天皇陵古墳)	91年=誉田御廟山古墳 (伝応神陵) 大山 陵古墳 (伝仁徳 陵)
	後半 95年=大山古墳—仁徳陵 と伝えられる・ 誉田山古墳— 応神陵と伝えられる 99年=変更なし	98年=大仙陵古墳 (仁徳 天皇陵古墳)・ 誉田御廟山古墳 (応 神天皇陵古墳)	96年=変更なし
00年代	前半 04年=大山古墳 (伝仁 徳天皇陵)・ 誉田山古墳 (伝 神天皇陵)	02年=大仙陵古墳 (仁 徳陵古墳)・ 誉田御廟山古墳 (応神陵古墳)	00年=変更なし
	現在	07年=変更なし	05年=変更なし



教科書における天皇陵表記の最大の変更点は、「**天皇陵名**」で**表記するか**、「**古墳名**」で**表記するかの違い**です。人工的に土が盛られた古代の墳墓は「古墳」であり、それぞれ古墳としての名称も持ちますが、それが特定の天皇の陵墓である場合、そこに「〇〇天皇陵」という陵墓としての名称も加わります。この2つの名前を持つが故に、教科書では名称を巡り変更が行われてきました。



考古学者の間でこれらの陵墓が本当に応神天皇や仁徳天皇のものであると確定していません。両陵墓ともに副葬品などは確認されていますが、現在宮内庁がこれら陵墓の発掘を許可していないため、どの学説にせよ証明することは難しい状況です。それ故に、特定の天皇陵とするのは適切でないとの学説が70年代ごろから強くなり、90年代初頭ごろまでは「天皇」という諡号しごうを記すか否かという違いはあるにせよ、特定天皇の陵墓であると表記されていました。しかし現在では、「仁徳天皇陵」「応神天皇陵」という表記を主とする記述はされなくなっています。

90年代の中盤以降、大山古墳や誉田山古墳といった古墳名を最初に記し、その後で〇〇天皇陵（と伝えられる）というかたちで表記することが多くなりました。そして、その表記も仁徳天皇陵の大山・大仙古墳、応神天皇陵の誉田山・誉田御廟山古墳など一貫していません。これは、古墳のある所在地名から古墳名を命名するという一般的な遺跡の命名方法を踏襲したためですが、所管する自治体でも名称に差異が存在するからです。

大阪府＝仁徳陵古墳（大山古墳）・応神陵古墳（誉田御廟山古墳）

堺市＝仁徳陵古墳（大仙古墳）

羽曳野市＝誉田御廟山古墳（応神陵古墳）

なお、本項に記した陵墓名は正式な名称ではなく、これらの陵墓を所管する宮内庁における正式名称は、

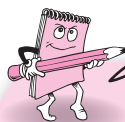
応神天皇陵＝えがのもふしのおかのみささぎ恵我藻伏岡陵

仁徳天皇陵＝もすのみみほらのなかのみささぎ百舌鳥耳原中陵

となっています。



空から見た大山古墳（国土画像情報（カラー空中写真）国土交通省をもとに作成）



雑学豆知識

仁徳陵古墳（大山古墳）は履中陵古墳や反正陵古墳などがある百舌鳥古墳群、もす応神陵古墳（誉田山古墳）は仲哀陵古墳や允恭陵古墳などがあるふるいち古墳群と、それぞれ大型古墳が密集する日本有数の古墳群に含まれています。これらの古墳群は100基以上の古墳で形成されていましたが、戦後の宅地開発などにより現存する古墳の数は減少しています。